

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	群馬工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科	夜・通信		2	5	7	7	
	電子メディア工学科	夜・通信			5	7	7	
	電子情報工学科	夜・通信			5	7	7	
	物質工学科	夜・通信			5	7	7	
	環境都市工学科	夜・通信			5	7	7	
	生産システム工学専攻	夜・通信		4	3	7	7	
	環境工学専攻	夜・通信			4	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページに掲載 https://www.gunma-ct.ac.jp/forstudent/event/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	群馬工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	群馬工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>全高専統一の Web シラバスシステムでの作成及び公表を行っている。 作成手順は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～1月下旬：時間割編成結果を本校の教務システムに反映 ・1月下旬～2月中旬：各教員へシラバスの入力・改訂作業を依頼 ・～3月末：入力状況の確認 ・授業開始前：ホームページへ掲載、公開 <p>なお、新任教員に対してはシラバスの作成マニュアルを渡し、4月下旬を目途として入力作業を依頼している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページに掲載</p> <p>https://www.gunma-ct.ac.jp/forstudent/event/</p>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

科目毎に公表している授業目標、達成目標をベースに担当教員が評価を行う。

例年、専攻科については2月末、学科については3月初旬に卒業及び進級に係る認定会議を開催し、学科に在籍する全学生分について単位数及び欠課時数の確認を行っている。

なお、専攻科については、2月下旬に運営委員会において修了認定を審議し、対象学生について修了要件(※)を満たしているかどうかの確認を行った上で大学改革支援・学位授与機構へ報告を行う。

(※) ①修了に必要な単位数(62単位)を満たしている

②生産システム環境工学プログラムの総合評価基準を満たしている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

○学科における客観的な指標の設定及び成績の分布状況の把握

学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する内規に以下のとおり規定している。

- ・成績評価は、100点法による整数値(以下「評点」という。)で行う。
- ・前期、後期を通じて履修する科目の学年成績の評点は、前期成績の評点及び後期成績の評点の算術平均とする。この場合において、平均点は、小数点以下第1位を四捨五入し、整数とする。
- ・前期又は後期のみで終了する科目については、前期又は後期の学期成績をもって学年成績とする。
- ・第3学年以上については、必修科目に基づく学級内順位を算出する。
- ・学級内順位等の算出にあたっては、各科目の評点(再試験を行った場合においても、再試験前の評点とする。)に次の加重数を乗じた数に基づいて算出する。
 - (1) 4単位未満の科目加重1
 - (2) 4単位以上の科目加重2

○専攻科における客観的な指標の設定及び成績の分布状況の把握

各学年の専攻ごとに以下のとおり指標を設定し、席次を決定する。

- ・シラバスに掲載されている成績評価方法に基づき、授業担当教員から提出された成績(100点満点)を各人毎に合計し、履修科目数に応じて各人の平均点を算出する。
- ・その算出された平均点の順位をもって席次とする

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページに掲載

<https://www.gunma-ct.ac.jp/forstudent/event/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【準学士課程 全学科共通】

教育理念に基づく5年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身につけ、本校の規定する単位を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して、卒業を認定する。

なお、学科の卒業の認定については対象学生全員の修得単位数及び欠課時数等を確認の上、教員会議の議を経て行う。

〈養成する人材像〉

専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解できる。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

- 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。
- 2 基礎工学科目の学習を通して、工学の基本を理解できる。
- 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

- 1 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。
- 2 工学や技術の潜在的危険性を理解できる。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

- 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。
- 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを活用できる。
- 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる。
- 4 設定された目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

- 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。
- 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。
- 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。

【学士課程・全専攻共通】

生産システム工学ならびに環境工学専攻では本校の教育理念に基づく2年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身につけ、本科4年・5年の2年間を含めて4年間の所定の単位を修得し、専攻科特別研究審査に合格した学生に対して、修了を認定する。

なお、専攻科の修了認定については、単位修得状況等を確認の上、運営委員会の議を経て行う。

〈養成する人材像〉

専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について深く理解できる。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

- 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。
- 2 基礎工学科目の学習を通して、より高度な工学を理解できる。
- 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを工学的問題に応用できる。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

- 1 専門領域および複合領域の科目を学習することにより、技術的課題を創造的に理解し対応できる。
- 2 工学や技術の潜在的危険性を事前に予測して回避策を提案できる。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

- 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を深く理解し、それを解決するための創造的な工夫ができる。
- 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを高度に活用できる。
- 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的・継続的・発展的に学習できる。
- 4 設定されたより高度な目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

- 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。
- 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを深く理解できる。
- 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページに掲載

<https://www.gunma-ct.ac.jp/forstudent/event/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	群馬工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本校ホームページに掲載 https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/evaluate/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/、学校要覧)</p> <p>(概要) 機械工学における力学、材料、加工及びエネルギーの分野を中心に、当該分野等に係る基礎的な知識及び理論、並びにこれらを活用する機構、制御、設計、解析等の知識、理論及び技術を実践との結びつきを重視しつつ、修得させるとともに、その過程を通じて、創造的な人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)</p> <p>(概要) 本校では、教育理念に基づく 5 年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身につけ、本校の規定する単位を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して、卒業を認定する。 〈養成する人材像〉 専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者</p> <p>[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解できる。</p> <p>[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。 2 基礎工学科目の学習を通して、工学の基本を理解できる。 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。</p> <p>[C] 〈専門分野の基本的知識〉 1 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。 2 工学や技術の潜在的危険性を理解できる。</p> <p>[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを活用できる。 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる。 4 設定された目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。</p> <p>[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/mechanical/、学校要覧)</p>

(概要)

機械工学科ではディプロマ・ポリシーに定めた能力・技術の素養を身に付けるため、本校の教育目的、教育理念及び学科の教育目的を踏まえて、以下のとおり教育課程を編成し、成績評価方法に基づき厳格な評価を行う。なお、1. 教育課程の編成[A]及び[E]並びに2. 成績評価方法に関する方針は学科共通として設定する。

1. 教育課程の編成

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

国語、社会、倫理などの人文社会系科目を配置している。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

低学年次を中心に数学、物理、化学、生物などの自然科学系の基礎科目や機械工学概論、設計製図、工作実習の基礎工学科目及び情報処理などの情報系科目を配置し、高学年での専門科目に対応できるように授業科目を楔形に編成している。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

高学年次を中心に材料力学、材料学、熱力学、流体工学、機械工作法、機械設計法、機構学、機械力学、制御工学、生産管理、ロボット工学に関連する工学系科目を配置している。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

工学実験、設計製図、マイコン制御、複合創造実験及び卒業研究などの実践系科目を配置している。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

英語や国語演習及び卒業研究などの表現系科目を配置している。

2. 成績評価方法に関する方針

- (1) 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートなどの平常時の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
- (2) 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
- (3) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)

(概要)

1. 求める学生像

本校では、本校の教育理念及び学習・教育目標、さらには、学科の教育目的を踏まえ、総合的な基礎学力を十分に有する、次のような人の入学を求めている。

- (1) 科学技術者になりたいという志をもっている人
- (2) 人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人
- (3) 国際的な場で活躍したいという希望をもっている人
- (4) 工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人
- (5) 数学や理科などの自然科学系科目が得意で興味のある人

2. 入学者選抜の基本方針

(1) 推薦入学者選抜

出身中学校等から推薦された志願者のうち、入学の意志が強固で、学修に必要な基礎学力を有し、適性及び関心をもつ者を調査書及び面接により選抜する。

(2) 一般入学者選抜

入学を志望し、学修に必要な基礎学力を十分に有する者を調査書及び学力検査により選抜する。

(3) 編入学者選抜

入学を志望し、編入学後の学修に必要な基礎学力を有し、適性をもつ者を調査書、学力

検査及び面接により選抜する。

学部等名 電子メディア工学科

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/、学校要覧)

(概要)

電子メディア工学における情報通信、新エネルギー及び電子材料の分野を中心に、当該分野等に係る基礎的な知識及び理論、並びにこれらを活用するエレクトロニクスの知識、理論及び技術を実践との結びつきを重視しつつ、修得させるとともに、その過程を通じて、創造的な人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)

(概要)

本校では、教育理念に基づく5年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身につけ、本校の規定する単位を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して、卒業を認定する。

〈養成する人材像〉

専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解できる。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

- 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。
- 2 基礎工学科目の学習を通して、工学の基本を理解できる。
- 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

- 1 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。
- 2 工学や技術の潜在的危険性を理解できる。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

- 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。
- 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを活用できる。
- 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる。
- 4 設定された目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

- 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。
- 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。
- 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：[https://www.gunma-](https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/electronic/)

[ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/electronic/](https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/electronic/)、学校要覧)

(概要)

電子メディア工学科ではディプロマ・ポリシーに定めた能力・技術の素養を身に付けるため、本校の教育目的、教育理念及び学科の教育目的を踏まえて、以下のとおり教育課程を編成し、成績評価方法に基づき厳格な評価を行う。なお、1. 教育課程の編成[A]及び[E]並びに2. 成績評価方法に関する方針は学科共通として設定する。

1. 教育課程の編成

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

国語、社会、倫理などの人文社会系科目を配置している。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

低学年次を中心に数学、物理、化学、生物などの自然科学系の基礎科目や電気基礎の基礎工学科目及び電子メディア工学序論、メディアリテラシーなどの情報系科目を配置し、高学年での専門科目に対応できるように授業科目を楔形に編成している。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

高学年次を中心に通信、エネルギー、電子材料に関連する工学系科目を配置している。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

工学実験、デザイン実験及び卒業研究などの実践系科目を配置している。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

英語や国語演習及び卒業研究などの表現系科目を配置している。

2. 成績評価方法に関する方針

- (1) 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートなどの平常時の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
- (2) 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
- (3) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)

(概要)

1. 求める学生像

本校では、本校の教育理念及び学習・教育目標、さらには、学科の教育目的を踏まえ、総合的な基礎学力を十分に有する、次のような人の入学を求めている。

- (1) 科学技術者になりたいという志をもっている人
- (2) 人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人
- (3) 国際的な場で活躍したいという希望をもっている人
- (4) 工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人
- (5) 数学や理科などの自然科学系科目が得意で興味のある人

2. 入学者選抜の基本方針

(1) 推薦入学者選抜

出身中学校等から推薦された志願者のうち、入学の意志が強固で、学修に必要な基礎学力を有し、適性及び関心をもつ者を調査書及び面接により選抜する。

(2) 一般入学者選抜

入学を志望し、学修に必要な基礎学力を十分に有する者を調査書及び学力検査により選抜する。

(3) 編入学者選抜

入学を志望し、編入学後の学修に必要な基礎学力を有し、適性をもつ者を調査書、学力検査及び面接により選抜する。

<p>学部等名 電子情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/、学校要覧)</p>
<p>(概要) 電子情報工学におけるハードウェア及びソフトウェアの分野を中心に、当該分野等に係る基礎的な知識及び理論、並びにこれらに応用する情報・通信・計算機工学等の知識、理論及び技術を実践との結びつきを重視しつつ、修得させるとともに、その過程を通じて、創造的な人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)</p>
<p>(概要) 本校では、教育理念に基づく5年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身につけ、本校の規定する単位を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p>〈養成する人材像〉 専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者</p> <p>[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解できる。</p> <p>[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。 2 基礎工学科目の学習を通して、工学の基本を理解できる。 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。</p> <p>[C] 〈専門分野の基本的知識〉 1 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。 2 工学や技術の潜在的危険性を理解できる。</p> <p>[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを活用できる。 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる。 4 設定された目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。</p> <p>[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/information/、学校要覧)</p>
<p>電子情報工学科ではディプロマ・ポリシーに定めた能力・技術の素養を身に付けるため、本校の教育目的、教育理念及び学科の教育目的を踏まえて、以下のとおり教育課程を編成し、成績評価方法に基づき厳格な評価を行う。なお、1.教育課程の編成[A]及び[E]並びに2.成績評価方法に関する方針は学科共通として設定する。</p> <p>1. 教育課程の編成 [A] 〈倫理・教養の基本的知識〉 国語、社会、倫理などの人文社会系科目を配置している。</p>

<p>[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉 低学年次を中心に数学、物理、化学、生物などの自然科学系の基礎科目や電子工学基礎、計算機概論の基礎工学科目及びプログラミング基礎などの情報系科目を配置し、高学年での専門科目に対応できるように授業科目を楔形に編成している。</p> <p>[C] 〈専門分野の基本的知識〉 高学年次を中心にコンピュータサイエンス、エレクトロニクス、プログラミング、情報通信・ネットワーク、人工知能・組込みシステム・バーチャルリアリティに関連する工学系科目を配置している。</p> <p>[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉 電子情報工学実験実習及び卒業研究などの実践系科目を配置している。</p> <p>[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉 英語や国語演習及び卒業研究などの表現系科目を配置している。</p> <p>2. 成績評価方法に関する方針</p> <p>(1) 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートなどの平常時の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(2) 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(3) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)</p>
<p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像 本校では、本校の教育理念及び学習・教育目標、さらには、学科の教育目的を踏まえ、総合的な基礎学力を十分に有する、次のような人の入学を求めている。</p> <p>(1) 科学技術者になりたいという志をもっている人 (2) 人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人 (3) 国際的な場で活躍したいという希望をもっている人 (4) 工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人 (5) 数学や理科などの自然科学系科目が得意で興味のある人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 推薦入学者選抜 出身中学校等から推薦された志願者のうち、入学の意志が強固で、学修に必要な基礎学力を有し、適性及び関心をもつ者を調査書及び面接により選抜する。</p> <p>(2) 一般入学者選抜 入学を志望し、学修に必要な基礎学力を十分に有する者を調査書及び学力検査により選抜する。</p> <p>(3) 編入学者選抜 入学を志望し、編入学後の学修に必要な基礎学力を有し、適性をもつ者を調査書、学力検査及び面接により選抜する。</p>
<p>学部等名 物質工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/、学校要覧)</p>

<p>(概要)</p> <p>物質工学における物理化学、無機化学、有機化学、微生物学、生化学及び化学工学の分野を中心に、当該分野等に係る基礎的な知識及び理論、並びにこれらを活用する材料化学又は生物工学等の知識と理論及び技術を実践との結びつきを重視しつつ、修得させるとともに、その過程を通じて、創造的な人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)</p>
<p>(概要)</p> <p>本校では、教育理念に基づく5年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身につけ、本校の規定する単位を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p>〈養成する人材像〉</p> <p>専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者</p> <p>[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉</p> <p>人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解できる。</p> <p>[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。 2 基礎工学科目の学習を通して、工学の基本を理解できる。 3 コンピュタリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。 <p>[C] 〈専門分野の基本的知識〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。 2 工学や技術の潜在的危険性を理解できる。 <p>[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを活用できる。 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる。 4 設定された目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。 <p>[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/chemistry/、学校要覧)</p>
<p>物質工学科ではディプロマ・ポリシーに定めた能力・技術の素養を身に付けるため、本校の教育目的、教育理念及び学科の教育目的を踏まえて、以下のとおり教育課程を編成し、成績評価方法に基づき厳格な評価を行う。なお、1. 教育課程の編成[A]及び[E]並びに2. 成績評価方法に関する方針は学科共通として設定する。</p> <p>1. 教育課程の編成</p> <p>[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉</p> <p>国語、社会、倫理などの人文社会系科目を配置している。</p> <p>[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉</p> <p>低学年次を中心に数学、物理、化学、生物などの自然科学系の基礎科目や物質化学、生物学の基礎工学科目及び情報処理などの情報系科目を配置し、高学年での専門科目に対応できるように授業科目を楔形に編成している。</p>

<p>[C] 〈専門分野の基本的知識〉 高学年次を中心に物理化学、無機化学、有機化学、化学工学、生化学、分析化学に関連する工学系科目を配置している。</p> <p>[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉 物質工学実験 IV、材料機能工学実験、生物機能工学実験及び卒業研究などの実践系科目を配置している。</p> <p>[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉 英語や国語演習及び卒業研究などの表現系科目を配置している。</p> <p>2. 成績評価方法に関する方針</p> <p>(1) 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートなどの平常時の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(2) 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(3) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)</p> <p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>本校では、本校の教育理念及び学習・教育目標、さらには、学科の教育目的を踏まえ、総合的な基礎学力を十分に有する、次のような人の入学を求めている。</p> <p>(1) 科学技術者になりたいという志をもっている人</p> <p>(2) 人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人</p> <p>(3) 国際的な場で活躍したいという希望をもっている人</p> <p>(4) 工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人</p> <p>(5) 数学や理科などの自然科学系科目が得意で興味のある人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 推薦入学者選抜 出身中学校等から推薦された志願者のうち、入学の意志が強固で、学修に必要な基礎学力を有し、適性及び関心をもつ者を調査書及び面接により選抜する。</p> <p>(2) 一般入学者選抜 入学を志望し、学修に必要な基礎学力を十分に有する者を調査書及び学力検査により選抜する。</p> <p>(3) 編入学者選抜 入学を志望し、編入学後の学修に必要な基礎学力を有し、適性をもつ者を調査書、学力検査及び面接により選抜する。</p>
<p>学部等名 環境都市工学科</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/、学校要覧)</p> <p>(概要)</p> <p>環境都市工学における構造・力学、環境・衛生、水理・水工、材料・コンクリート、土質・地盤及び都市・交通の分野を中心に、当該分野等に係る基礎的な知識、理論及び技術、並びにこれらを応用する環境、都市、防災の知識、理論及び技術を実践との結びつきを重視しつつ、修得させるとともに、その過程を通じて、創造的な人材を育成する。</p>

卒業又は修了の認定に関する方針
(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)

(概要)

本校では、教育理念に基づく5年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身につけ、本校の規定する単位を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して、卒業を認定する。

〈養成する人材像〉

専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解できる。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

- 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。
- 2 基礎工学科目の学習を通して、工学の基本を理解できる。
- 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

- 1 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。
- 2 工学や技術の潜在的危険性を理解できる。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

- 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。
- 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを活用できる。
- 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる。
- 4 設定された目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

- 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。
- 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。
- 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/civil/、学校要覧)

環境都市工学科ではディプロマ・ポリシーに定めた能力・技術の素養を身に付けるため、本校の教育目的、教育理念及び学科の教育目的を踏まえて、以下のとおり教育課程を編成し、成績評価方法に基づき厳格な評価を行う。なお、1. 教育課程の編成[A]及び[E]並びに2. 成績評価方法に関する方針は学科共通として設定する。

1. 教育課程の編成

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

国語、社会、倫理などの人文社会系科目を配置している。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

低学年次を中心に数学、物理、化学、生物などの自然科学系の基礎科目や測量、土木製図、環境工学概論などの基礎工学科目及び情報基礎、情報セキュリティなどの情報系科目を配置し、高学年での専門科目に対応できるように授業科目を楔形に編成している。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

高学年次を中心に構造・力学、環境・衛生、水理・水工、材料・コンクリート、土質・地盤及び都市・交通に関連する工学系科目を配置している。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

環境都市工学実験実習、総合プロジェクト及び卒業研究などの実践系科目を配置している。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

英語や国語演習及び卒業研究などの表現系科目を配置している。

2. 成績評価方法に関する方針

- (1) 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートなどの平常時の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
- (2) 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
- (3) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)

(概要)

1. 求める学生像

本校では、本校の教育理念及び学習・教育目標、さらには、学科の教育目的を踏まえ、総合的な基礎学力を十分に有する、次のような人の入学を求めている。

- (1) 科学技術者になりたいという志をもっている人
- (2) 人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人
- (3) 国際的な場で活躍したいという希望をもっている人
- (4) 工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人
- (5) 数学や理科などの自然科学系科目が得意で興味のある人

2. 入学者選抜の基本方針

(1) 推薦入学者選抜

出身中学校等から推薦された志願者のうち、入学の意志が強固で、学修に必要な基礎学力を有し、適性及び関心をもつ者を調査書及び面接により選抜する。

(2) 一般入学者選抜

入学を志望し、学修に必要な基礎学力を十分に有する者を調査書及び学力検査により選抜する。

(3) 編入学者選抜

入学を志望し、編入学後の学修に必要な基礎学力を有し、適性をもつ者を調査書、学力検査及び面接により選抜する。

学部等名 生産システム工学専攻

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/、学校要覧)

(概要)

高等専門学校における教育の基礎の上に、機械工学、電子メディア工学又は電子情報工学のいずれかの専門領域及び各領域を複合した領域においてこれらに係るより深く高度な知識、理論及び技術を実践との結びつきを重視しつつ、修得させるとともに、その過程を通じて、創造的な人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)

(概要)

生産システム工学ならびに環境工学専攻では本校の教育理念に基づく2年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身に付け、本科4年・5年の2年間を含めて4年間の所定の単位を修得し、専攻科特別研究審査に合格した学生に対して、修了を認定する。

〈養成する人材像〉

専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について深く理解できる。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

- 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。
- 2 基礎工学科目の学習を通して、より高度な工学を理解できる。
- 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを工学的問題に応用できる。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

- 1 専門領域および複合領域の科目を学習することにより、技術的課題を創造的に理解し対応できる。
- 2 工学や技術の潜在的危険性を事前に予測して回避策を提案できる。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

- 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を深く理解し、それを解決するための創造的な工夫ができる。
- 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを高度に活用できる。
- 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的・継続的・発展的に学習できる。
- 4 設定されたより高度な目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

- 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。
- 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを深く理解できる。
- 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.gunma->

[ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/advanced_ap/](https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/advanced_ap/)、学校要覧)

生産システム工学専攻ではディプロマ・ポリシーに定めた能力・技術の素養を身に付けるため、本校の教育目的、教育理念及び専攻の教育目的を踏まえて、以下のとおり教育課程を編成し、成績評価方法に基づき厳格な評価を行う。なお、1. 教育課程の編成[A]及び[E]並びに2. 成績評価方法に関する方針は専攻共通として設定する。

1. 教育課程の編成

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

国語、社会などの人文社会系科目、物質、生命、環境などの総論や技術者倫理を配置している。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

複素解析、ベクトル解析、線型代数、量子力学などの自然科学系基礎科目や材料学、数値解析、情報基礎、シミュレーション工学などの幅広い工学の基礎科目及び企業論やインターンシップなどの実践的工学の科目などを配置している。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

弾性力学、制御工学、流体力学などの機械工学領域や電子物性、回路理論、アルゴリズム論、デジタル信号処理、通信理論などの電気電子工学領域の専門分野の基本科目を配置している。

<p>[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉 制御工学、システム制御、機械・材料力学演習、回路理論演習、熱・流体力学・制御演習、技術者倫理、総合工学などの実践系科目、生産システム工学実験、生産システム工学特別研究を配置している。</p> <p>[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉 実用英語や英語演習、科学英語、国語表現演習、近代西洋社会論及び特別研究、Fundamental Mechanicsなどの表現系科目を配置している。</p> <p>2. 成績評価方法に関する方針</p> <p>(1) 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートなどの平常時の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(2) 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(3) 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(4) インターンシップについては、実習記録と成果報告発表会、受入企業の評価などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)</p> <p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像 生産システム工学ならびに環境工学専攻では、本校の教育理念及び教育目標、さらには、各専修（出身学科）の教育目的を踏まえ、専門的な知識と総合的な基礎学力を十分に有する、次のような人の入学を求めている。</p> <p>(1) 科学技術者として活躍し、社会に貢献したいという高い志をもっている人</p> <p>(2) 持続可能な開発目標のもとに人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人</p> <p>(3) 国際的な場で活躍したいという希望をもっている人</p> <p>(4) 先進的な工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人</p> <p>(5) 理工学系科目が得意で探究心の高い人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 推薦入学選抜 高専の各学科から推薦された志願者のうち、入学の意志が強固で、学修に必要な基礎学力を十分有し、適性及び関心をもつ者を調査書及び面接により選抜する。</p> <p>(2) 学力選抜 専攻科課程における学修に必要な基礎学力を十分に有する者を、学力検査により選抜する。</p>

<p>学部等名 環境工学専攻</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/、学校要覧)</p> <p>(概要) 高等専門学校における教育の基礎の上に、物質工学（材料化学及び生物工学）又は環境都市工学のいずれかの専門領域及び各領域を複合した領域においてこれらに係るより深く高度な知識や理論及び技術を実践との結びつきを重視しつつ、修得させるとともに、その過程を通じて、創造的な人材を育成する。</p> <p>卒業又は修了の認定に関する方針</p>
--

<p>(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)</p>
<p>(概要)</p> <p>生産システム工学ならびに環境工学専攻では本校の教育理念に基づく2年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身に付け、本科4年・5年の2年間を含めて4年間の所定の単位を修得し、専攻科特別研究審査に合格した学生に対して、修了を認定する。</p> <p>〈養成する人材像〉</p> <p>専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者</p> <p>[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉</p> <p>人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について深く理解できる。</p> <p>[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。 2 基礎工学科目の学習を通して、より高度な工学を理解できる。 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを工学的問題に応用できる。 <p>[C] 〈専門分野の基本的知識〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門領域および複合領域の科目を学習することにより、技術的課題を創造的に理解し対応できる。 2 工学や技術の潜在的危険性を事前に予測して回避策を提案できる。 <p>[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を深く理解し、それを解決するための創造的な工夫ができる。 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを高度に活用できる。 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的・継続的・発展的に学習できる。 4 設定されたより高度な目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。 <p>[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを深く理解できる。 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/advanced_ae/、学校要覧)</p>
<p>環境工学専攻ではディプロマ・ポリシーに定めた能力・技術の素養を身に付けるため、本校の教育目的、教育理念及び専攻の教育目的を踏まえて、以下のとおり教育課程を編成し、成績評価方法に基づき厳格な評価を行う。なお、1. 教育課程の編成[A]及び[E]並びに2. 成績評価方法に関する方針は専攻共通として設定する。</p> <p>1. 教育課程の編成</p> <p>[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉</p> <p>国語、社会などの人文社会系科目、物質、生命、環境などの総論や技術者倫理を配置している。</p> <p>[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉</p> <p>複素解析、ベクトル解析、線型代数、量子力学などの自然科学系基礎科目や物理化学、建設材料、材料学、数値解析、情報基礎、シミュレーション工学などの幅広い工学の基礎科目及び企業論やインターンシップなどの実践的工学の科目などを配置している。</p> <p>[C] 〈専門分野の基本的知識〉</p> <p>有機化学、無機化学、物理化学、生物工学、遺伝子工学、生命科学などの応用化学領域や土木計画学、地震工学、地盤工学、水工学、建設材料学、環境防災工学などの土木工</p>

<p>学領域の専門分野の基本科目を配置している。</p> <p>[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉 総合化学演習、土木工学演習、企業論、技術者倫理、総合工学などの実践系科目、環境工学実験、環境工学特別研究を配置している。</p> <p>[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉 実用英語や英語演習、科学英語、国語表現演習、近代西洋社会論及び特別研究、Fundamental Mechanics などの表現系科目を配置している。</p> <p>2. 成績評価方法に関する方針</p> <p>(1) 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートなどの平常時の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(2) 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(3) 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p> <p>(4) インターンシップについては、実習記録と成果報告発表会、受入企業の評価などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/philosophy/policy/、学校要覧)</p> <p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像 生産システム工学ならびに環境工学専攻では、本校の教育理念及び教育目標、さらには、各専修（出身学科）の教育目的を踏まえ、専門的な知識と総合的な基礎学力を十分に有する、次のような人の入学を求めている。</p> <p>(1) 科学技術者として活躍し、社会に貢献したいという高い志をもっている人</p> <p>(2) 持続可能な開発目標のもとに人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人</p> <p>(3) 国際的な場で活躍したいという希望をもっている人</p> <p>(4) 先進的な工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人</p> <p>(5) 理工学系科目が得意で探究心の高い人</p> <p>2. 入学者選抜の基本方針</p> <p>(1) 推薦入学選抜 高専の各学科から推薦された志願者のうち、入学の意志が強固で、学修に必要な基礎学力を十分有し、適性及び関心をもつ者を調査書及び面接により選抜する。</p> <p>(2) 学力選抜 専攻科課程における学修に必要な基礎学力を十分に有する者を、学力検査により選抜する。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：ホームページに掲載 https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/organization/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					人
機械工学科	—	4人	3人	1人	1人	1人	10人
電子メディア工学科	—	4人	5人	人	人	人	9人
電子情報工学科	—	6人	4人	人	人	人	9人
物質工学科	—	3人	5人	1人	2人	1人	12人
環境都市工学科	—	5人	3人	人	人	人	8人
一般教科（人文科学）	—	5人	5人	2人	人	1人	13人
一般教科（自然科学）	—	4人	3人	人	3人	1人	11人
専攻科	—	31人	28人	4人	6人	4人	73人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		43人					43人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	41人	102.5%	200人	210人	105%	若干名	0人
電子メディア 工学科	40人	41人	102.5%	200人	194人	97%	若干名	0人
電子情報 工学科	40人	41人	102.5%	200人	217人	108.5%	若干名	1人
物質工学科	40人	41人	102.5%	200人	209人	104.5%	若干名	1人
環境都市 工学科	40人	41人	102.5%	200人	198人	99%	若干名	0人
合計	200人	205人	102.5%	1000人	1028人	102.8%	若干名	2人
生産システム 工学専攻	12人	22人	183.3%	24人	43人	179.2%	人	人
環境工学専攻	8人	19人	237.5%	16人	37人	231.3%	人	人
合計	20人	41人	205%	40人	80人	200%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	35人 (100%)	24人 (68.6%)	10人 (28.6%)	1人 (2.8%)
電子メディア 工学科	35人 (100%)	20人 (57.1%)	14人 (40.0%)	1人 (2.8%)
電子情報 工学科	45人 (100%)	24人 (53.3%)	18人 (40.0%)	3人 (6.7%)
物質工学科	39人 (100%)	30人 (76.9%)	7人 (18.0%)	2人 (5.1%)
環境都市 工学科	35人 (100%)	21人 (60.0%)	14人 (40.0%)	0人 (0.0%)
合計	189人 (100%)	119人 (63.0%)	63人 (33.3%)	7人 (3.7%)
生産システム 工学専攻	18人 (100%)	10人 (55.6%)	7人 (38.9%)	1人 (5.5%)
環境工学専攻	17人 (100%)	14人 (82.4%)	3人 (17.6%)	0人 (0%)
合計	35人 (100%)	24人 (68.6%)	10人 (28.6%)	1人 (2.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【学科：進学先】群馬高専専攻科、長岡技術科学大学、群馬大学 等				
【専攻科：進学先】東京工業大学大学院、東北大学大学院、筑波大学大学院 等				
【学科：就職先】NTT 東日本グループ、アマゾンジャパン (同)、積水化学工業 (株) 等				
【専攻科：就職先】東京電力ホールディングス (株)、信越化学工業 (株) 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
機械工学科	41人 (100%)	33人 (80.5%)	4人 (9.8%)	5人 (12.2%)	人 (%)
電子メディア 工学科	41人 (100%)	30人 (73.2%)	1人 (2.4%)	10人 (24.4%)	人 (%)
電子情報 工学科	41人 (100%)	37人 (90.2%)	4人 (9.8%)	1人 (2.4%)	人 (%)
物質工学科	42人 (100%)	34人 (81.0%)	3人 (7.1%)	6人 (14.3%)	人 (%)
環境都市 工学科	41人 (100%)	30人 (73.2%)	3人 (7.3%)	5人 (12.2%)	人 (%)
合計	206人 (100%)	164人 (79.6%)	15人 (7.3%)	27人 (13.1%)	人 (%)
生産システム 工学専攻	18人 (100%)	18人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
環境工学専攻	18人 (100%)	17人 (94.4%)	1人 (5.6%)	人 (%)	人 (%)
合計	36人 (100%)	35人 (97.2%)	1人 (2.8%)	人 (%)	人 (%)

（備考）2年進級時の転学科により、機械工学科1名増、電子情報工学科1名増、物質工学科1名増、環境都市工学科3名減。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>（概要）</p> <p>学科及び専攻毎にカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを定め公表しており、授業については、授業回数確保を前提に、年間の授業・行事計画表に基づき実施している。</p> <p>また、学生の履修選択に資するよう、具体的な内容等はシラバス上で公表している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>（概要）</p> <p>【準学士課程・全学科共通】</p> <p>本校では、教育理念に基づく5年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身につけ、本校の規定する単位を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p>〈養成する人材像〉</p> <p>専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者</p> <p>[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉</p> <p>人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解できる。</p> <p>[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉</p> <p>1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。</p> <p>2 基礎工学科目の学習を通して、工学の基本を理解できる。</p>
--

3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

- 1 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。
- 2 工学や技術の潜在的危険性を理解できる。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

- 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。
- 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを活用できる。
- 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる。
- 4 設定された目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

- 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。
- 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。
- 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。

【学士課程・全専攻共通】

生産システム工学ならびに環境工学専攻では本校の教育理念に基づく 2 年間の教育目標を達成するため、以下に示す能力・技術の素養を身に付け、本科 4 年・5 年の 2 年間を含めて 4 年間の所定の単位を修得し、専攻科特別研究審査に合格した学生に対して、修了を認定する。

〈養成する人材像〉

専門分野を広い視野で捉えることができ、高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者

[A] 〈倫理・教養の基本的知識〉

人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について深く理解できる。

[B] 〈幅広い工学の基本的知識〉

- 1 工学の基礎となる自然科学の科目を理解できる。
- 2 基礎工学科目の学習を通して、より高度な工学を理解できる。
- 3 コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを工学的問題に応用できる。

[C] 〈専門分野の基本的知識〉

- 1 専門領域および複合領域の科目を学習することにより、技術的課題を創造的に理解し対応できる。
- 2 工学や技術の潜在的危険性を事前に予測して回避策を提案できる。

[D] 〈システムデザイン能力・問題解決能力〉

- 1 自然科学、基礎工学、専門工学の知識を用いて、現実の技術的課題を深く理解し、それを解決するための創造的な工夫ができる。
- 2 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術及び工学的ツールを高度に活用できる。
- 3 実験・実習科目の修得を通じて、自主的・継続的・発展的に学習できる。
- 4 設定されたより高度な目標に対し、互いに連携を図りながら目標達成に向けた行動ができる。

[E] 〈コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・国際対応力〉

- 1 自己の考えを論理的、客観的に口頭及び文章で表現できる。
- 2 異なった歴史や文化を持った人々の考えを深く理解できる。
- 3 英語等の外国語でコミュニケーションをとることができる。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・ 無	単位
	電子メディア工学科	167 単位	有・ 無	単位
	電子情報工学科	167 単位	有・ 無	単位
	物質工学科	167 単位	有・ 無	単位
	環境都市工学科	167 単位	有・ 無	単位
	生産システム工学 専攻	62 単位	有・ 無	単位
	環境都市工学専攻	62 単位	有・ 無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに掲載
https://www.gunma-ct.ac.jp/facility_info/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	約 80,000 円	(内訳) ・教科書代 約 30,000 円 ・教材等 約 40,000 円 ・スポーツ振興センター 共催掛金 1,550 円 ・寄宿料 8,400～9,600 円 (寮生のみ)
	電子メディア 工学科				
	電子情報 工学科				
	物質工学科				
	環境都市 工学科				
	生産システム 工学専攻	234,600 円	84,600 円	約 40,000 円	(内訳) ・教科書代 約 30,000 円 ・寄宿料 8,400～9,600 円 (寮生のみ)
	環境工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 主に低学年対象ではあるが、TA 補講、放課後学習室等を設けることで学生の学習面での支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進路支援室を中心に、5 年生担任、進学担当教員、就職担当教員及び副専攻科長が大学及び企業の情報収集を行い、随時、学生へ情報を提供している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生相談室にスクールカウンセラーの有資格者 3 名を交代で 5 日間配置し、学生・教員及び保護者からの相談に対応している。また、保健室の看護師は 2 名体制で対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに掲載 https://www.gunma-ct.ac.jp/school_info/disclosure/education_info/
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。